

平成 30 年 1 月 16 日

報道機関 各位

第5回「人文知」コレギウム

—富山，地域性を彩る祭りとことば—

富山大学人文学部は、学部教員による研究会「人文知」コレギウムを定期的開催しております。富山県の「人文知」の拠点として、人文研究のさらなる高みを目指して、様々な分野の教員が集い、相互に研究交流を図ります（※「コレギウム」は「仲間たちの集い」という意味）。

来る1月31日（水）はその第5回目となります。テーマは、「富山，地域性を彩る祭りとことば」。福野夜高祭と富山方言という地域に根差した言語文化の紹介を通して、富山の地域性の特質・魅力を浮かび上がらせませす（詳細については、別添チラシをご参照ください）。

本研究会は、一般の方や学生の聴講も可能です（事前申込不要・無料）。

当日の取材・報道方、よろしくお取り計らい願います。

【本件に関する問い合わせ先】
富山大学 人文学部総務課
TEL. 076-445-6131

第5回 「人文知」コレgium

富山，地域性を彩る祭りとことば

2018.1.31(水)13:30-15:30
富山大学人文学部1階大会議室

「富山の祭りの魅力を考える： 福野夜高祭を事例にして」

社会文化講座(文化人類学)教授
藤本 武

【要旨】富山には魅力的な祭りがいくつもある。砺波平野一帯で行われる夜高祭は、優美なものとして知られる。南部に位置する南砺市福野の夜高祭は、「引き合い」とよばれる互いの行燈を壊す勇壮な儀礼的喧嘩で有名である。しかし、この祭りには引き合いにとどまらない豊かな魅力がある。本発表では福野夜高祭の魅力について考えてみたい。

「敬語：そのバリエーションと 富山県方言」

東アジア言語文化講座(日本語学)教授
中井精一

【要旨】日本語に「方言」と呼ばれる地域日本語が存在するように、「敬語」にも日本各地に体系や運用の異なる形式がある。本発表では、富山県を中心とした西日本社会各地でのフィールドワークにもとづいて、敬語運用のバリエーションとその運用を例示し、既存の敬語研究の問題点を指摘し、多様な日本語敬語の姿をとらえる視点や説明体系を提示したい。

お問い合わせ：

富山大学人文学部総務課

TEL 076-445-6131

FAX 076-445-6141

福野夜高祭(撮影：藤本武)